



# ぐんま官民連携まちづくり シンポジウムを開催しました！

群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチーム(群馬県都市計画課)

## 1. はじめに

群馬県で推進している「官民連携まちづくり」について、より多くの方に関心を持ってもらうために、令和4年2月24日に県庁32階NETSUGENからオンライン配信にて、「ぐんま官民連携まちづくりシンポジウム」を開催しました。

## 2. 第1部：基調講演

基調講演は、「既成概念をぶっ飛ばせ！公民連携の構想力と行動力」と題して、(株)オープンエー代表取締役・東北芸術工科大学教授の馬場正尊さんに公園を活用したご自身の取り組みなどをご紹介いただきながら、官民連携やエリアリノベーションがどのように行われてきたかお話をいただきました。その講演の概要について、ご紹介します。

### ○はじめ

初めは、古い建物のリノベーションに携わる「民間×民間」の事業を行う中で、公共性の高い空間に様々な人が集まり、コミュニケーションの頻度が高まることでムーブメント化する経験をしました。

そこから徐々に、意識がパブリック空間に向くようになり、利用者も運営者もハッピーになれるような公共空間に対する妄想企画書「RePUBLIC 公共空間のリノベーション」という本を出版しました。この本をきっかけにコミュニケーションが始まり、公共空間へのコミットがスタートしました。



基調講演(馬場正尊氏)

### ○公共R不動産から始まる新たな活用

公共R不動産は、日本中にある面白い公共空間を民間企業へマッチングするサイトであり、行政と民間の間にある認識やスケジュール感、公共空間活用で大切にしていることを翻訳し、双方を繋ぐ役割も担っています。そこで、トライしたのが、「南池袋公園」の事例です。民間のマネジメント組織を立ち上げ、公園を知ってもらう社会実験を繰り返し行いました。地元に住む女性が結婚式を挙げてくれたエピソードもあります。こうしたトライ&エラーを繰り返し、許認可関係者と理解を深めていきました。制度やルールは、固いものではなく、お互いの信頼関係によって上手に使うべき柔軟なものです。東京23区で唯一消滅可能性都市に選ばれてしまった豊島区(池袋)は、今や「子育てしたい街」として人気があります。おそらく、南池袋公園のハッピーな風景がエリアの価値を上げたのでしょう。

地方では、佐賀県にある人口8,500人の地元・江北町での事例があります。2019年に完成した「みんなの公園」は、市民ワークショップを開き「こんな公園ができれば、あなたは何をしますか？してくれませんか？」とプレイヤー目線の質問をし、公園にコミットしてくれる市民に集まってもらいました。ハードの設計と同時に運営者のプロポーザルをすることで、ソフトの設計も進めるという仕組みです。運営者の希望を聞きながら設計したことで、完成と同時に色んなことが起こる公園となり、公園の活用が盛り上がっています。

このほかにも、沼津市の公民で連携協定を結んだ泊まれる公園「INN THE PARK」や山形県にある旅館を学生たちの手でシェアハウスにリノベーションした事例などがあります。

### ○おわりに

小さな民間の拠点づくり、次に、公民連携のエリアリノベーション、そこから公共空間を拠点としたエリアリノベーションに公民連携事業を掛け合わせて展開していきます。小さな点を面に広げて、最終的に政策へ繋げていくことが、こうした事業の醍醐味だと想います。

今日の講演が、公民共に「これから行動したい！」と思う方へのヒントになれば嬉しいです。

オンラインでありながらも参加者みなさまから多くの質問もあり、タイトル通りの「既成概念をぶっ飛ばす！」そんな熱を感じる講演となりました。



### 3. 第2部：妄想トークセッション

第2部では、パネリストに馬場さん、(株)A&V企画の林智浩さん、本庄デパートメントの早川純さん、群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチームの宮下智さん、コーディネーターに公共R不動産の飯石藍さんをお迎えし、公共空間の新たな活用に向けた妄想トークを展開していただきました。

今回は、みどり市のまちなか交流館及びながめ余興場、甘楽町の小幡公園およびその周辺エリア、群馬県総合スポーツセンター伊香保リンクを対象施設としました。

#### ■ながめ余興場・まちなか交流館周辺エリア(みどり市)

ながめ余興場は、昭和12年に建築された劇場建築の建物で、現在、落語や歌舞伎、地元のカラオケ大会に使われています。まちなか交流館は、江戸中期に近江商人によって奥村酒造が創業された場所で、酒造が廃業になってから、市が買い取った施設になります。どちらもハードが先行し、ソフト面がついてきていないことが、課題となっている施設です。



ながめ余興場

妄想トークでは、台湾の文化創造産業が紹介され、まちなか交流館は、市の庁舎として活用や近くの高校の部室として使う。また、ながめ余興場では、ながめ余市やテストマーケットの開催などが、挙げられました。さらに、醸造文化を活かして、まちの人が集まって“発酵”するようなイベントも面白そうという意見がでました。

#### ■小幡公園および周辺エリア(甘楽町)

小幡公園は、平成26年度に整備され、遊具はなく、駐車場とトイレのある公園です。周辺には、雄川堰や楽山園などの観光地も多く、街歩きの拠点になっています。しかし、イベント以外の時は、閑散としており、公共空間に活用が課題となっています。



雄川堰

妄想トークでは、小幡公園から約200mのところにある雄川堰周辺の町道と野菜の産地を活かして、「ストリートキッチン」として活用し、野菜や作り手、食べ方を知る場づくりや空き家をシェアキッチンとして活用するなどのアイデアが挙がりました。また、小幡公園周辺は、ウォーキングをしている人が多いので、健康に特化したコンテンツもあると良いのではという意見もでました。

#### ■県総合スポーツセンター伊香保リンク(渋川市)

伊香保リンクは、スケートやアイスホッケー、フィギュアスケートができる県の施設です。冬は、スケートの大会など利用予定も多く、夏の閑散期にどう使うか、どのように場所の価値を上げていくかが、課題となっています。

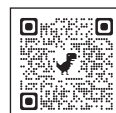


伊香保リンク

妄想トークでは、伊香保温泉と提携した「リゾート施設」として利用し、子どもを遊ばせつつ、ママとパパは、温泉でのんびりできるような企画やスケボーパーク、ロープウェイインシアターなどが挙がりました。また、屋内リンクに氷を張って、「真夏の氷点下レストラン」を開き、温泉との温度差を楽しむようなアイデアもでました。

全ての施設で、ワクワクするような妄想が広がり、時間があっという間に過ぎてしまいました。最後に、馬場さんから、県や市の行政担当者は、「自分たちが走る」ことよりも「このネタに乗ってくれる民間ってどこにいるだろう?」という視点で考え、人材を繋げながら行政が楽しく人を巻き込んで行ってほしい。とアドバイスいただきました。

今回のシンポジウムは、アーカイブ配信を行っておりますので、右のQRコードから、ぜひご視聴ください。



パネリスト・コーディネーターの皆さま